

令和 3 年 6 月 3 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H02382

研究課題名(和文)ユネスコ「歴史的都市景観に関する勧告」後の都市経営戦略確立に関する研究

研究課題名(英文) Study on Urban Management Strategy after UNESCO Recommendation on Historic Urban Landscape

研究代表者

西村 幸夫 (Nishimura, Yukio)

國學院大学・研究開発推進機構・教授

研究者番号：20159081

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 28,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2011年11月にユネスコ総会において採択された「歴史的都市景観に関する勧告」後の日本の歴史的都市景観整備について研究を進めた結果、歴史まちづくり法のもとでの施策と連携しつつ、面的な都市景観の歴史的価値を明らかにする調査を地域計画の下で実施し、重点地域として計画の中に位置づけると同時に、歴史まちづくり計画を策定し、規制誘導施策を予算措置を伴いながら策定することをプロセスとして推奨することによって、「歴史的都市景観」を軸とした新たな都市計画整備施策の実施に向けたロードマップが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「歴史的都市景観」の問題を単なる景観保全の施策として捉えることを超え、都市のマネジメント戦略の中で捉え直し、それによってグローバルな視点に立って、新たな都市戦略を空間的な施策として確立するための実施に向けたロードマップを明らかにしたことは、日本の都市計画制度の新しい展開と都市マネジメント戦略の中での有効な位置づけに関する重要な知見を提供した。

研究成果の概要(英文)：This study carried out an investigation for the enforcement of new city planning measures, adopted the UNESCO's recommendation on historic urban landscape. As a result, it clarified a roadmap for the enforcement of new city planning measures through the following methods; 1) carrying out an investigation in order to clarify the historic value of its urban landscape and to clarify important historic areas, 2) placing such important historic areas into regional plan, 3) deciding on a historic city plan under the Law on the Maintenance and Improvement of Historical Landscape in a Community (known as the Law on Historical Urban Development), and 4) devised a regulation and instruction measure while being accompanied by budget measures as a process.

研究分野：都市計画

キーワード：歴史的都市景観 文化的景観 文化財保存活用地域計画 歴史まちづくり

1. 研究開始当初の背景

2011年11月にユネスコ総会において「歴史的都市景観に関する勧告」(Recommendation on historic urban landscape)が採択され、ユネスコ加盟各国では徐々に法的整備がすすみつつある。ここでいう「歴史的都市景観」とは、歴史的なスカイラインや眺望景観などを含む概念で、ロンドン塔やケルンの大聖堂などのような世界遺産となっているモニュメントの背景に超高層のオフィスビルが林立することを危惧することから1990年代に生まれた考え方で、比較的新しい。また、議論が主として西欧中心に行われてきたため、日本においてこのことを知悉している研究者は限られ、このユネスコの勧告に関しても日本ではほとんど知られていない。

「歴史的都市景観」はユネスコの勧告案文において詳細に定義されているが、日本の歴史的環境保護法制においてはこうした規制の考え方は存在しないため、今後の日本の都市景観整備は同勧告を尊重しつつ、都市マネジメントにおいて具体的な施策を実施しなければならない事態に立ち至った。とりわけ、都市計画におけるマネジメント的側面が重要視される昨今において、新たな都市景観施策を都市の経営戦略の中に位置づけ、効果的な施策を手順に実施することが求められ、そのための方法論を確立する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、2011年11月にユネスコ総会において採択された「歴史的都市景観に関する勧告」後の日本の都市景観整備について、同勧告を尊重しつつ、都市マネジメントにおいて具体的な戦略を確立し、各自治体における都市景観整備を新しい段階に発展させる施策とそこへ至るロードマップを明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究はおおきく3つの研究部門から構成され、いずれのテーマについても理論の構築とケース・スタディを補完させ合いながら研究を進める。

1. 都市計画の先進諸国において「歴史的都市景観」の問題を都市計画制度の中にどのように位置づけようとしているのかを明らかにする国際的視点での研究
 - 1-1 ユネスコ勧告成立後の各国における「歴史的都市景観」の概念の受容に関する研究
 - 1-2 「歴史的都市景観」を都市計画の内部に制度化することに関する実態分析研究
2. 日本における「歴史的都市景観」の都市計画制度の内部化に関する研究
 - 2-1 「歴史的都市景観」を計画立案の仕組みの中に位置づける手法に関する研究
 - 2-2 「歴史的都市景観」の規制に関する法理論に関する研究
 - 2-3 都市マネジメント戦略における「歴史的都市景観」施策の位置づけに関する研究
3. 新しい都市マネジメント戦略の中における空間的施策の位置づけに関する研究
 - 3-1 諸外国及び日本の先進自治体による都市マネジメント戦略における「歴史的都市景観」を中心とした空間的施策全般の位置づけに関する政策的研究
 - 3-2 日本における「歴史的都市景観」を軸とした新たな都市景観整備施策の実践のためのロードマップ提言に向けた実践的研究

4. 研究成果

平成28(2016)年度は、第一の研究部門である都市計画の先進諸国において「歴史的都市景観」の問題を都市計画制度の中でどのように位置付けているのかに関し、国際的視点での研究の調査(ロンドン、バルセロナ、フローニンゲン、シュツットガルト、マルセイユ、ニューヨーク、デトロイト)をほぼ終えることが出来た。並行して第二の研究部門である日本における「歴史的都市景観」を都市計画制度に内部化するかに関し、調査(横浜)を実施した。また、第三の研究部門の新しい都市マネジメント戦略の中における空間的施策の位置づけに関する研究の内部的な議論を開始した。これらの成果は、平成29年2月に共同研究者全員の参画により『都市経営時代のアーバンデザイン』として、学芸出版社より刊行した。

平成29(2017)年度は、第一の研究部門を終了し、第二の研究部門の議論をひろく日本の都市計

画制度のなかにおける歴史的都市景観関連の運用実態を明らかにし、今後に向けた議論を進めた。その成果は、平成 29 年 10 月に共同研究者ほぼ全員の参画により『まちを読み解く 景観・歴史・地域づくり』（西村幸夫・野澤康編、朝倉書店）として刊行したほか、平成 29 年 8 月には、アジア都市に関しては『都市の遺産とまちづくり』（鈴木伸治編、春風社）として発表した。

平成 30(2018)年度は、第二の研究部門である日本における「歴史的都市景観」を都市計画制度に内部化するかに関しては、平成 30 年 6 月に文化財保護法が改正され、文化財保存活用地域計画（以下、地域計画）の制度が法定化されたことにともない、その実施に向けた施策を検討するにあたり、運用指針の公表とその実施を待って本研究を延期した。

令和元(2019)年度は、平成 30 年 6 月に文化財保護法が改正され、文化財保存活用地域計画（以下、地域計画）の制度が法定化されたことにともない、その実施に向けた施策を検討するにあたり、運用指針の施行が平成 31 年 4 月より実施され、本研究を再開することとなった。

地域計画の策定が多くの自治体で開始され、その策定にあたって未指定文化財の悉皆的調査が盛り込まれることが多く、その一部として「文化的景観」候補地の調査が入ることから、「歴史的都市景観」の視点もひろく地域計画に活かせる可能性が高まったことを明らかにした。ただし、現時点においては地域計画の策定が文化財担当課の所轄にとどまっているため、都市計画的な手法との橋渡しが欠落している現状も同時に明らかになった。

令和 2(2020)年度は、新型コロナウイルスの影響により繰越した第三の研究部門におけるアジアの都市マネジメント戦略の中の空間的施策の位置づけに関する研究について、インターネットによる文書検索、関係者へのオンライン・ヒアリング等の実施を行ない、学術論文としてまとめて日本都市計画学会にて発表した。

研究全体としては、第三の研究部門の新しい都市マネジメント戦略の中における空間的施策の位置づけに関する研究の内部的な議論をまとめ、日本での歴史まちづくり法のもとでの施策と連携しつつ、面的な都市景観の歴史的価値を明らかにする調査を地域計画の下で実施し、重点地域として計画の中に位置づけると同時に、歴史まちづくり計画を策定し、規制誘導施策を予算措置を伴いながら策定することをプロセスとして推奨することによって、「歴史的都市景観」を軸とした新たな都市計画整備施策の実施に向けたロードマップが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 森 朋子、黒瀬 武史、西村 幸夫	4. 巻 55
2. 論文標題 国際連合による事業化プロセスから見る丹下健三「ルンビニ開発計画」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 1304 ~ 1309
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.55.1304	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 森 朋子	4. 巻 54
2. 論文標題 コカナの震災復興から見たネワール集落の民家再建の実態と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 399 ~ 404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.54.399	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 石山 千代、窪田 亜矢、西村 幸夫	4. 巻 53
2. 論文標題 集落・町並み保全地域における地域主体の調整システムの構築と調整課題の変遷に関する研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 1239 ~ 1246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.53.1239	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Masaru Miyawaki	4. 巻 1-2017
2. 論文標題 Methodologies and Challenges of 'View Protection Areas' for Landscape	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 City Safe Energy journal	6. 最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12896/cse201700100101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 尾関 利勝、清水 裕之、宮脇 勝	4. 巻 82
2. 論文標題 初動期における景観マスタープランの策定方法に関する研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 1989 ~ 1998
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.82.1989	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高取 千佳、長谷川 泰洋、藤原 望、清水 裕之、宮脇 勝	4. 巻 52
2. 論文標題 管理作業量と景観選好性を指標とした二次林管理計画に関する研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 1232 ~ 1239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.52.1232	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masaru Miyawaki	4. 巻 -
2. 論文標題 View protection areas of the historic monuments by landscape plans in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Atti della XX Conferenza Nazionale SIU, PLANUM PUBLISHER	6. 最初と最後の頁 619 ~ 628
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masaru Miyawaki	4. 巻 32
2. 論文標題 A Study on the View Protection Areas and the Visual Impact Assessments	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies	6. 最初と最後の頁 1 ~ 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naoyuki Yamashita, Chika Takatori, Masaru Miyawaki, Hiroyuki Shimizu, Nobuko Kawaguchi	4. 巻 -
2. 論文標題 Relationship between Landscape Design Theme and Labor Forces of Japanese Garden, A Case Study of Shirotori Garden in Nagoya	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies	6. 最初と最後の頁 1~4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masaru Miyawaki	4. 巻 32
2. 論文標題 A Study on the View Protection Areas and the Visual Impact Assessments	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies	6. 最初と最後の頁 1~13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chika TAKATORI, Keidai MINAMOTO, Nobuko KAWAGUCHI, Hiroyuki SHIMIZU, Masaru MIYAWAKI	4. 巻 32
2. 論文標題 Evaluation of Landscape Management Labor Accounts in a Regional Scale, A Case Study of Chubu Metropolitan Area, Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies	6. 最初と最後の頁 1~4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮脇 勝	4. 巻 68
2. 論文標題 アーバン・ランドスケープ・デザイン - 国内外の事例を通じて -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アーバン・アドバンス	6. 最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAKAMURA, K., SAKAMOTO. H, KRIZAJ, D	4. 巻 第5報
2. 論文標題 Social Value Creation in Art-Projects related Tourisms: Multi-disciplinary Modeling from Both Cases of Cultural City and Country side	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 AIRTH2017	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坪原紳二	4. 巻 Vol.52 (No.2)
2. 論文標題 オランダにおける通勤用長距離自転車ルート of 計画・設計の指針及び整備実態の分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本都市計画学会都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 169-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石山千代、窪田亜矢、西村幸夫	4. 巻 No.51-3
2. 論文標題 妻籠宿における住民憲章制定 (昭和46年) に至る過程に関する研究 - 集落保存初期における自主規制の創出 -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本都市計画学会論文集	6. 最初と最後の頁 328-335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村幸夫	4. 巻 vol.63 2009年春
2. 論文標題 地域の歴史的資源を活かしたまちづくりと歴史まちづくり法の制定	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際文化研修	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村幸夫	4. 巻 第107巻第6号
2. 論文標題 景観行政のこれまでとこれから	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 54-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坪原紳二	4. 巻 Vol.2
2. 論文標題 公共の利益実現にとっての近隣政府の有効性-オランダ国立美術館を貫く自転車道を例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部紀要	6. 最初と最後の頁 63-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮脇 勝、鎌田 祥史	4. 巻 51
2. 論文標題 古写真を用いた歴史的景観の観察方法に関する研究	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 320 ~ 327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.51.320	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐千寛, 清水裕之, 宮脇勝, 高取千佳	4. 巻 55
2. 論文標題 愛知県域内の人口動態と地理情報の重回帰分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本建築学会東海支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 397-399
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮脇 勝	4. 巻 81
2. 論文標題 ふるさとのランドスケープを新しい未来に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 新都市ハウジングニュース	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本英之, 中村孝太郎	4. 巻 Vol.6
2. 論文標題 アート利用ツーリズムサービスにおける知識共有 - 金沢クリエイティブ・ツーリズムと紀の国トレイナートの両事例より	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 知識共創	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村孝太郎, 坂本 英之, 廣本 直子, 中山 仁, Dejan Krizaj	4. 巻 第5報
2. 論文標題 「おもてなし」型価値共創経営の SDL的記述の試み(第5報)ー国内外のアートプロジェクト事例による一般化とプラットフォーム理論を交えた展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 サービス学会第5回国内大会講演論文集PDF	6. 最初と最後の頁 61-68 (1-10)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 小松崎陵太, 高見沢実, 野原卓	4. 巻 F-1分冊
2. 論文標題 公園整備の歴史的変遷と緑地保全に与える影響に関する研究 茨城県水戸市千波湖周辺地域を対象として	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 713-714
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Masaru Miyawaki
2. 発表標題 View protection areas of the historic monuments by landscape plans in Japan
3. 学会等名 XX Conferenza Nazionale SIU (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masaru Miyawaki
2. 発表標題 A Study on the View Protection Areas and the Visual Impact Assessments
3. 学会等名 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naoyuki Yamashita, Chika Takatori, Masaru Miyawaki, Hiroyuki Shimizu, Nobuko Kawaguchi
2. 発表標題 Relationship between Landscape Design Theme and Labor Forces of Japanese Garden, A Case Study of Shirotori Garden in Nagoya
3. 学会等名 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chika TAKATORI, Keidai MINAMOTO, Nobuko KAWAGUCHI, Hiroyuki SHIMIZU, Masaru MIYAWAKI
2. 発表標題 Evaluation of Landscape Management Labor Accounts in a Regional Scale, A Case Study of Chubu Metropolitan Area, Japan
3. 学会等名 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masaru Miyawaki
2. 発表標題 Local landscape plan
3. 学会等名 18th workshop of European Landscape Convention (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮脇 勝
2. 発表標題 国際研究からの景観学：景観権・景観法・景観計画・アーバンデザイン
3. 学会等名 土木学会 景観・デザイン委員会20周年記念シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高取 千佳、長谷川 泰洋、藤原 望、清水 裕之、宮脇 勝
2. 発表標題 管理作業量と景観選好性を指標とした二次林管理計画に関する研究
3. 学会等名 日本都市計画学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 永瀬節治・西村幸夫
2. 発表標題 伝建制度の手法を活用した史跡集落保全の初動期の状況 - 五箇山における歴史的環境の持続再生に関する研究 その3 -
3. 学会等名 日本建築学会大会(中国) 学術講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎一也・岡村祐
2. 発表標題 ロンドンオリンピック・パラリンピックにおける競技会場を利用したシティプロモーション戦略 グリニッジ馬術会場の例
3. 学会等名 日本建築学会大会（中国）学術講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪原紳二
2. 発表標題 The Efficacy of Neighborhood Government in Protecting the Public Interest: The Case of the Bicycle Route through the Dutch National Museum
3. 学会等名 Pro Walk/Pro Bike/Pro Place 2016 Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮脇 勝, 鎌田 祥史
2. 発表標題 古写真を用いた歴史的景観の観察方法に関する研究 -愛南町外泊地区の石垣の文化的景観キャラクタライゼーション-
3. 学会等名 日本都市計画学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 五十嵐千寛, 清水裕之, 宮脇勝, 高取千佳
2. 発表標題 愛知県域内の人口動態と地理情報の重回帰分析
3. 学会等名 日本建築学会2016年度東海支部研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂本英之, 中村孝太郎
2. 発表標題 アート利用ツーリズムサービスにおける知識共有 - 金沢クリエイティブ・ツーリズムと紀の国トレイナートの両事例より
3. 学会等名 第6回知識共創フォーラム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 NAKAMURA, K., SAKAMOTO. H, KRIZAJ, D
2. 発表標題 Social Value Creation in Art-Projects related Tourisms: Multi-disciplinary Modeling from Both Cases of Cultural City and Country side
3. 学会等名 AIRTH2017 (Innovation in Tourism and Hospitality, Joint conference with ENCIENTROS 6th International Tourism Conference) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村孝太郎, 坂本 英之, 廣本 直子, 中山 仁, Dejan Krizaj
2. 発表標題 「おもてなし」型価値共創経営の SDL的記述の試み(第5報) - 国内外のアートプロジェクト事例による一般化とプラットフォーム理論を交えた展開
3. 学会等名 サービス学会第5回国内大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 西村幸夫、野澤康 編、遠藤新、野原卓、宮脇勝、桑田仁、窪田亜矢、前田英寿、中島直人、中島伸、松井大輔、鈴木伸治、岡崎篤行、今村洋一、黒瀬武史、永瀬節治、木下光、三島伸雄 著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 160
3. 書名 まちを読み解く	

1. 著者名 西村 幸夫、本中 眞 編、稲葉信子、西和彦、鈴木地平、岡田保良、長岡正哲、青山由仁子 著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 320
3. 書名 世界文化遺産の思想	

1. 著者名 西村 幸夫	4. 発行年 2018年
2. 出版社 鹿島出版会	5. 総ページ数 232
3. 書名 西村幸夫 文化・観光論ノート	

1. 著者名 西村 幸夫	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 350
3. 書名 京都物語	

1. 著者名 鈴木伸治	4. 発行年 2017年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 208
3. 書名 都市の遺産とまちづくり	

1. 著者名 西村 幸夫、高梨 遼太郎、黒瀬 武史、坂本 英之、窪田 亜矢、阿部 大輔、宮脇 勝、野原 卓、鈴木 伸治、楊 恵亘、柏原 沙織、中島 直人、鳥海 基樹、岡村 祐、坪原 紳二	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学芸出版社	5. 総ページ数 224
3. 書名 都市経営時代のアーバンデザイン	

1. 著者名 高田重男・横川善正 監修、坂本英之、他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 株式会社新潮社	5. 総ページ数 109
3. 書名 ホスピタリティ・アートプロジェクト	

1. 著者名 吉田 克己、角松 生史、鳥海基樹、他計23名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 496
3. 書名 都市空間のガバナンスと法	

1. 著者名 オギュスタン・ベルク、鳥海 基樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 482
3. 書名 理想の住まい	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森 朋子 (Mori Tomoko) (00746480)	札幌市立大学・デザイン学部・准教授 (20105)	
研究分担者	野原 卓 (Nohara Taku) (10361528)	横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・准教授 (12701)	
研究分担者	永瀬 節治 (Nagase Setsuji) (10593452)	和歌山大学・観光学部・准教授 (14701)	
研究分担者	鳥海 基樹 (Toriumi Motoki) (20343395)	首都大学東京・都市環境科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	宮脇 勝 (Miyawaki Masaru) (30280845)	名古屋大学・環境学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	中島 直人 (Nakajima Naoto) (30345079)	東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	遠藤 新 (Endo Arata) (40292891)	工学院大学・建築学部(公私立大学の部局等)・教授 (32613)	
研究分担者	桑田 仁 (Kuwata Hitoshi) (50276458)	芝浦工業大学・建築学部・教授 (32619)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	阿部 大輔 (Abe Daisuke) (50447596)	龍谷大学・政策学部・教授 (34316)	
研究分担者	黒瀬 武史 (Kurose Takefumi) (50598597)	九州大学・人間環境学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	中島 伸 (Nakajima Shin) (50706942)	東京都市大学・都市生活学部・講師 (32678)	
研究分担者	岡村 祐 (Okamura Yu) (60535433)	首都大学東京・都市環境科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	鈴木 伸治 (Suzuki Nobuharu) (80272368)	横浜市立大学・都市社会文化研究科・教授 (22701)	
研究分担者	坪原 紳二 (Tsubohara Shinji) (80290188)	跡見学園女子大学・観光コミュニティ学部・准教授 (32401)	
研究分担者	坂本 英之 (Sakamoto Hideyuki) (90275082)	金沢美術工芸大学・美術工芸学部・教授 (23301)	
研究分担者	児玉 千絵 (Kodama Chie) (30847314)	國學院大学・教育開発推進機構・助教 (32614)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------